

活動名：第 25 回喜多方市長杯蔵のまちフットサルフェスティバル5年生大会

日 程：令和 4 年 12 月 3 日（土）・4 日（日）

会 場：喜多方市押切川公園体育館

参 加：5 年生 12 名

帯 同：設楽・大森コーチ

結 果：予選リーグ

VS 五泉 DEVA 5 : 1 ○

VS 喜多方中央 SSS 7 : 4 ○

VS 美里 SSS 3 : 2 ○

リーグ 1 位通過

決勝トーナメント

VS FC 西会津 Jr 5 : 5 (PK 10 : 11) ●

下位トーナメント

VS エスペランサ (PK 5 : 4) ○

VS BOAVISTA Jr 2 : 2 (PK 5 : 4) ○

敢闘賞決定戦

VS 五泉 DEVA 4 : 0 ○

結 果 5 位 (敢闘賞) / 12 チーム中

報 告：設楽

テーマ

大会が終わった後に未だ出来るといった気持ちや体力を残さず、今持っている全てを出し切ること。

優勝という自分たちの目標に向かって、全員でこの大会にチャレンジすること。

出来事

この大会はアーレ創部当初から親睦がある喜多方サッカー協会さんとの繋がりでご招待を受け、4～6年生ごとのカテゴリーに分かれ出場させてもらっていましたが、ここ数年はコロナ禍のため大会は中止となっていたことから、久しぶりの出場機会でした。今大会は4年生大会が無く、5年生大会からで来年の6年生大会へと続き、今回は先頭バッターの5年生たちの活躍を期待して挑みました。

いつもは16チーム出場の大会でしたが、会場内の密を避けるために12チームでの戦いで、変則的な試合対戦の条件でした。

さて、予選リーグですが三試合を参加した全員が出場し、危なげなくしっかりと勝利することができました。大会のパンフレットにはチームごとの登録選手が記載されており、事前に相手の学年が確認できました。出場したチーム中でアーレはオール5年生チームの編成は、他チームの3年生以上から編成したチームに比べて恵まれたチームでした。そんなことからこの試合は子どもたちが掲げていた「優勝」は夢ではないと思われました。

リーグ戦の中でも美里 SSS さんは 3、4 年生の編成でしたが、足下の技術が高く組織だったチーム作りをされているようで、アーレの選手たちを翻弄するプレーの数々に手こずりましたがしっかりと勝つことができ、リーグ 1 位通過の決勝トーナメントに進出することができました。しかし、次の日の試合時間は 8：30 開始となったため、郡山を出発するには朝 6 時となり、その前には起きなくてはならないことから早朝からの初戦に子どもたちの体調具合に不安がありました。

そのため、試合前のアップは目を覚ますように息を上げるトレーニングを行う中、やはり「あくび」をする子どもたちが多々おり、試合前の心配が募りました。

前日の試合で調子の良い子どもたちを中心に配置し、試合に長く出られなかった子をポジションのバランスを見ながら交代を考え FC 西会津 Jr さんに挑みました。前半は 3：0 としっかりとリードしましたが、後半になり相手チームのパワープレー的な遠目からのシュートが炸裂し、キーパーの頭上にビシバシと決まってしまうあっという間に同点となり、終了のホイッスル。PK 戦へ突入。あまり経験したことがない子どもたちにとって貴重な試合経験となりました。お互いに入れたり、外したりと一巡が廻り二巡目に入り結果は 10：11 の惜敗となり、子どもたちは大逆転劇に合い号泣していました。私もどうして PK 戦にもつれ込んでしまったのか整理がつかないまま PK 戦となり、信じられない気持ちで子どもたちの PK 戦を見守っていました。

大会の二日後のワールドカップ日本代表 VS クロアチア戦の PK 戦の惜敗。勝敗を PK 戦で決めることの残酷さ、何とも言えない決着でした。そんな負けを経験した後は順調に勝ち進むと思われましたが、さらに二試合を PK 戦を余儀なくされ、3 試合経験することになりました。しかし、子どもたちにとってはメンタル的に刺激を感じて成長する機会になったと思います。ちなみに下位トーナメントの VOAVISTA Jr 戦は 4 試合のなってしまうことから、いきなりの PK 戦の勝敗で決める条件となっていました。

5 年生の中でキーパーをやりたい子どもが居ないことから、今回はこうよう君とそら君にお願いしました。彼からは他の子がキーパーを断る中、気持ちよく引き受けてくれたので、みんなにとって助かったと思います。

課題

フットサルは足下の技術やフィジカル面の高さが際立つ競技ですが、身重さはアーレがどのチームにも上回っていました。しかし、それぞれ足下の技術はまだまだ磨かなくてはならないと感じたと思う機会だったと思います。

○しっかりと強く正確に蹴る技術。

○相手の細かく速い動きに着いていく技術。

○ボールを運ぶ正確なドリブルの技術。etc

リフティングの個人練習以外で普段の遊びから上記の技術を少しでも習得してもらいたいと思います。

良かったこと

上記のことですが、キーパーポジションを任命する時にキーパーをやりたい人、キーパー役になってもいい人、と確認します。その際に自信が無い子に任命すると失点も多くなり、試合が壊れてしまいます。そのような中、やってもいいと言ってくれた2名の彼らには、みんなが感謝の気持ちになった試合前の姿勢でした。特にPK戦のキーパー役はチームみんなの期待を受けて大きなプレッシャーとなります。その状況下で3試合ものPK戦をこなしてくれた「こうよう君」に今大会は優秀選手賞を与えました。

今大会は計7試合に挑み、結果PK戦の敗戦1試合のみでしたので、負けた気がしない何とも言えない終わり方となりました。来年度の6年生大会ではさらに成長した姿をこの会場で見せてくれることを期待します。

喜多方サッカー協会の関係者のみなさん、2日間の準備と運営をありがとうございました。また、来年もご招待をいただけたら幸いです。

保護者の方々には朝早くから子どもたちの送迎と二日間の応援をありがとうございました。毎度の話しですが、子どもたちの未来への成長は、子どもの頃に様々な経験をさせることだと思います。試合でプレーした経験、勝ち負けの経験、友達との交流による協調性を育む経験など、この二日間で多くの貴重な体験ができたので良かったと思います。今後もアーシの活動にご理解のほどよろしくお願いいたします。





